

'72 ミュンヘン

—オリンピック第三報—

パレスチナ・ゲリラ事件以来、極度に厳重になった警備陣に見守られて再開された競技。女子400メートル・リレー決勝、地元西ドイツが、女子100メートル、200メートルのゴールド・メダリスト・シュテヘルをアンカーにたてた東ドイツを破って優勝、スタンドを大いにわかせました。女子砲丸投げではソ連のチジョワ選手が21メートル03の世界新で優勝、大きな体を小さく縮めてメダルをかけてもらい大喜びです。今大会で初めてオリンピック種目になった男子スーパーヘビー級、ソ連のアレクセイエフが640キロを持ちあげ、世界一の力持ちになりました。日本中が注目する男子・バレーでは南、中村、横田らベテラン組の大活躍で見事優勝、8年振りの悲願達成で男泣きです。大会の花マラソン、日本期待の宇佐美、采谷、君原の三選手が出場、第一グループで快調にとばす宇佐美はオーバー・ペースがたたって次第に脱落、かわりに君原がじりじりと追いあげ5位に入賞しました。15キロすぎには1万メートル5位の快足、ショーターがトップにおどり出て、そのまま独走の形で逃げきり、アメリカは64年ぶりにマラソンで金メダルをとりました。

波乱に富んだ17日間、11日午後7時30分から行なわれた閉会式は、パレスチナ・ゲリラの犠牲となった人のイスラエル人を悼んで静かで寂しい閉会式となりました。

政治テロ、コマーシャルイズムに揺れた近代オリンピック、数多くの名勝負や英雄たちが生まれた中でオリンピックの危機を鮮烈に浮き彫りにした大会でした。

騒然！ 兵員車搬送再開

国内法を守れ、の声に中断されていた米軍の戦車装甲車輸送。

9月12日、政府は閣議で、相模補給廠の戦車・装甲車修理部門をこの1両年のうちに縮小・撤去する。戦闘車輛のヴェトナムへの輸送についてはおくらぬよう善処する、という基本方針を発表。これを歓迎した相模原市・横浜市はあいついで市道の通行許可を与えた。

そして9月19日早朝、装甲車の輸送は再開されようとしていた。その前夜、相模補給廠ゲート前は人でうずまっていた。監視をつづけてきた、輸送に反対する労働者・学生・市民。それぞれが「ヴェトナム戦争に加担するのはやめよう」とよびかけ戦車・装甲車の輸送阻止を叫ぶ。

8月23日深夜、ゲート前の討論から生れた「ただの市民が戦車を止める会」も集った市民にゲート前の座り込みをよびかけ、座り込みのうずは拡がっていった。夜がふけるにつれて、人は増え、シュプレヒコールがこだまする。学生の中のある集団がゲート前にバリケードをつくり、それに火を放った。それを合図のように機動隊が排除にかかる。一進一退がくり返され、時はたち、輸送予定の朝五時を迎えようとしていた。長い長い夜が明けようとしていた。機動隊はついに座り込む市民や学生の排除を強行手段で開始。

「ヴェトナムで人殺しをする戦車の輸送をなぜあなたは手伝うのか、口々に叫ぶ声もかきけされ、装甲車の通る道は次第に整理されていった。午前六時過ぎ、堅く閉ざされたゲートが重々しく開かれ、装甲車を積んだ10台のトラックが次々に機動隊に守られて横浜に向かった。「戦争に加担するな、の多くの声を残して、36日ぶりに再開された米軍装甲車の輸送再開。この日、政府は、9月12日に発表した方針とはうらはらの、戦車の修理が終了したあとヴェトナムに送られることがあっても安保条約上問題はない。ヴェトナム戦争に対処するため日本の施設や区域を使用する事は安保条約第6条で許容されるという内容の統一見解を出した。米軍戦闘車輛の輸送再開をきっかけに、今再び安保条約の再検討と日本の中の基地が問われようとしている。